

基本目標		風土に根ざした産業をつくる			第 1 四半期	
区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538.3 (H29)	600 (H30)	—	—
政策 1	①新規就農者数 (累計)	人	28	21	28	+8
	②担い手集積率	%	52.3	52.0	52.3	+1.8
	③道の駅来場者数	万人	84.0	87	13.2(4-6)	▲12.0
政策 2	①起業支援補助金利用件数 (累計)	件	24	28	24	+2
	②空き店舗利用件数 (累計)	件	7	8	7	+1
	③ブランド商品認定数 (累計)	件	0	18	0	0
	④益子焼総販売額	億円	23.0 (R1)	38(R1)	23.0 (R1)	—
	⑤有効求人倍率	—	0.77	1	0.69(1-5)	▲0.10
政策 3	①観光客入込数	万人	290.9	295	—	—
	②観光客宿泊者数	人	47,550	50,000	—	—
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,363	1,250	—	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①5月より新たに地域おこし協力隊が1名着任となり、樹園地継承事業(ぶどう)に従事した。</p> <p>②小泉本沼地区土地改良事業では、本沼地区の水田整備工事が完了した。また、里西星の宮地区土地改良事業では、基礎調査として生き物調査を実施した。</p> <p>③安心安全の観点からGW中は臨時休業とした一方、生産者支援として、ドライブスルー・宅配・貨客混載事業等により、野菜等の販売を行った。</p> <p>2 ①休業要請に協力した事業者に対する「新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金」は180件の交付決定となった。資金繰り支援として、中小企業振興資金融資制度を拡充した結果、7件で16.7百万の申込となった。また、作陶資金として「大塚実基金貸付制度」を新設し、19件で9.5百万円の申込となった。飲食店支援として38店舗が参加した「益子の飲食店応援プロジェクト」テイクアウト冊子を町内全戸に配布した。町内の経済活性化を目的に、地元店のプレミアム率を大型店より高く設定するなど、商工会と連携して7月のプレミアム商品券発行事業を拡充するための取組を行った。「新業態開拓等支援補助金」を新設し、コロナ禍における事業者の3密対策や新たな投資に対する支援を開始した。また、4月よりポイントカード事業がスタートした。</p> <p>②町内の商店街の状況について、商工会と意見交換を行った。</p> <p>③新加工施設が完成したことから、新たに町内外からの受託加工が可能となった。</p> <p>④春の陶器市中止を受けて、Web陶器市を企画実施した結果、約47百万円の売上につながった。</p> <p>⑤町内事業者を対象とした雇用調整助成金と持続化給付金に関する相談窓口及びコールセンターを設置した。</p> <p>3 ①②③コロナ禍で影響を受けた観光産業を支援するため、7月から販売予定の「益子de宿泊&amp;体験クーポン発行事業」の準備を進めた。</p>	<p>1 ①前事業者から地域おこし協力隊へのスムーズな移行ができるように支援していく。</p> <p>②両地区の畑地帯総合整備計画では、継続性や生産性が高い作物の選定を検討し、法人化など集落全体で作業が行える仕組みを構築していく。</p> <p>③第1四半期の売上は前年対比67.5%と減少したが、コロナ禍での安全・安心な環境作りにはしっかりと取り組むと共に、非対面販売を推進していく。</p> <p>2 ①新型コロナウイルス感染症対策として一連の経済対策を実施したが、今後も第二波に見舞われるリスクやコロナ禍における経営環境が長期化するリスクに対して、資金繰り対策をはじめ事業者の状況をきめ細かく把握したうえで、適切な経済対策を適時実施していくことで、町内事業者の経営の安定を図っていく。</p> <p>ポイントカードの取扱を開始したが加盟店数が少ないことから、今後は加盟店の増加と併せて町内外のカードホルダーの獲得を計画的に行っていくことで、データーマーケティングを通じて町内循環型経済のツールとなるよう取組んでいく。</p> <p>②商店街の現況、今後の課題等について引続き商工会と意見交換を行い、空き店舗の発生防止や店舗物件の流動化等について検討していく。</p> <p>③町内受託を優先的に取扱うことで町内の6次産業化を進めると共に、とちぎHACCP認証を取得し衛生管理の徹底を図っていく。</p> <p>④コロナ禍により新商品開発企画は当面見送りとなるが、日本遺産認定に伴う各種企画を通じて益子焼のPRを図っていく。</p> <p>⑤企業誘致に積極的に取り組むことで、町内に新たな雇用を創出し、安定的に有効求人倍率1.0以上の状況となるよう取組んでいく。</p> <p>3 ①②③日本遺産認定による新たな事業やランドスケープによる地域づくりを通じた観光振興に取り組んでいく。また、県境を越えた観光振興やイベントについては今後の状況を注視し対応していく。</p>

基本目標		風土に根ざした産業をつくる			第2四半期	
区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538.3(H29)	600(H30)	—	—
政策1	①新規就農者数(累計)	人	28	21	29	+7
	②担い手集積率	%	52.3	52.0	—	—
	③道の駅来場者数	万人	84.0	87	32.2(4-9)	▲12.3
政策2	①起業支援補助金利用件数(累計)	件	24	28	26	+3
	②空き店舗利用件数(累計)	件	7	8	8	+2
	③ブランド商品認定数(累計)	件	0	18	0	0
	④益子焼総販売額	億円	23.0(R1)	38(R1)	—	—
	⑤有効求人倍率	—	0.77	1	0.63(1-8)	▲0.13
政策3	①観光客入込数	万人	290.9	295	75.9(1-6)	▲75.6
	②観光客宿泊者数	人	47,550	50,000	—	—
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,363	1,250	—	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①樹園地継承事業で、地域おこし協力隊が栽培したぶどうの初出荷が行われた。</p> <p>②各営農組織の横の連携を強化するため、町内の集落営農組合と農業生産法人が初めて一堂に会し、情報交換と課題の共有を行った。</p> <p>③コロナ禍で来場者数と売上が前年対比減少となる中、貨客混載事業を強化すると共に、従来のブルーベリーに加えてとうもろこしや枝豆など新たな農作物を対象にした収穫体験事業に取り組んだ。</p> <p>2 ①起業支援補助金は審査会に於いて2件の交付決定をした。コロナ禍での経済対策では、制度を拡充した中小企業振興資金融資の申込件数は5件で11百万円、5月に新設した作陶資金の「大塚実基金貸付」は5件で2,250千円の申込となった。国の中小企業資金繰り支援制度に伴う認定申請件数は75件となった。</p> <p>また、新たな事業環境に対応するために6月に新設した「新業態開拓等支援補助金」の申請件数は、取扱開始からの累計で43件となった。町内の経済活性化を目的に、地元店のプレミアム率を大型店より高く設定するなど、商工会と連携して7月に行ったプレミアム商品券発行事業は完売となった。</p> <p>②町内の商店街の状況について、商工会や関係者と意見交換を行った。</p> <p>③新加工施設において、町内産農作物を活用し、干し芋やドライフルーツの試作品や町内飲食店からの依頼によるトルティーザなどを開発し商品化した。</p> <p>④春の陶器市に続いて秋の陶器市も中止になったことから、Web陶器市を行うこととなった。</p> <p>⑤産業団地造成に向けての基礎調査に着手した。また、求職者セミナーを8回開催し延べ85人の参加となった。</p> <p>3 ①②③町内の観光関連事業の振興を目的に実施した「益子 de 宿泊&amp;体験クーポン」は完売となった。日本遺産活性化協議会内に観光振興ワーキンググループを設置し、行政と関係団体が連携して日本遺産に係る観光事業を進めていくことが決定された。</p>	<p>1 ①地域おこし協力隊の事業が、独立後に経営として成り立つよう指導・支援していく。</p> <p>②担い手不足と高齢化という共通の課題を抱えており、今後は垣根を超えた連携が不可欠となることから、引続き情報交換の場を設けていく。</p> <p>③観光目的の来場者が減少する中、地元消費者をより重視した品揃えへの転換・都内のマンション居住者をターゲットにした新たな貨客混載事業・三密を回避した農業体験等ニューノーマルに対応した事業展開をしていく。</p> <p>2 ①コロナ禍における経済環境は依然として先行き不透明であり、今後も厳しい状況が長期化するリスクに対して、町内事業者のきめ細かい把握に努め、資金繰り対策をはじめ適切な経済対策を適時実施していくことで、町内事業者の経営の安定を図っていく。</p> <p>ポイントカード事業については、10月より全町民に2千ポイントを付与し町内循環型経済を推進していくと共に、ポイントカード協議会と連携して計画的な加盟店の増加に取り組んでいく。</p> <p>②商店街の現況や課題等について商工会や関係者との意見交換を継続し、引続き空き店舗の発生防止対策や流動化等について検討していく。</p> <p>③ブランド商品の認定基準を制定し、新たに認定機関を立上げて認定を行っていく。</p> <p>④Web陶器市の実施に際しては、春のWeb陶器市の総括を踏まえた内容としていく。また、実行委員会への協力・支援を行っていく。</p> <p>⑤産業団地造成と企業誘致に関する基本方針を策定していくと共に、進出が見込まれる企業へのヒアリング等を行っていく。また、今後予定されている求職者セミナーや合同就職面接会の開催を通じて有効求人倍率の向上へ繋げていく。</p> <p>3 ①②③DMO候補法人登録に向けて、事業計画・収支計画の詳細を詰めていく。日本遺産に係る観光事業については、観光振興ワーキンググループで具体的に検討しワークショップを開催していく。</p>

基本目標		風土に根ざした産業をつくる				第3四半期	
区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期	
成果指標	町内総生産	億円	538.3(H29)	600(H30)	—	—	
政策1	①新規就農者数(累計)	人	28	21	30	+3	
	②担い手集積率	%	52.3	52.0	—	—	
	③道の駅来場者数	万人	84.0	87	51.1(4-12)	▲12.3	
政策2	①起業支援補助金利用件数(累計)	件	24	28	27	+4	
	②空き店舗利用件数(累計)	件	7	8	8	+2	
	③ブランド商品認定数(累計)	件	0	18	0	0	
	④益子焼総販売額	億円	23.0(R1)	38(R1)	—	—	
	⑤有効求人倍率	—	0.77	1	0.60(1-11)	▲0.15	
政策3	①観光客入込数	万人	290.9	295	75.9	▲75.6	
	②観光客宿泊者数	人	47,550	50,000	—	—	
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,363	1,250	—	—	

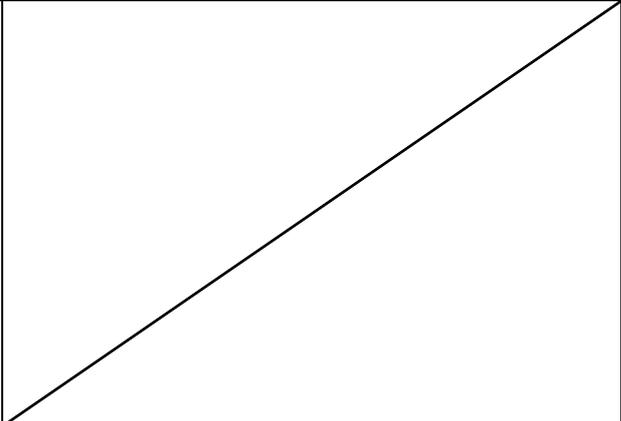
実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①②集落営農組合や農業生産法人を対象にした露地野菜の視察や新たに県と連携して若手農業者等を対象に西洋野菜の研究に取り組んだ。また、圃場整備後の小泉本沼集落営農組合の営農体制について地元との話し合いを継続的に行った。里西星の宮地区土地改良事業では、生き物や土質及び埋蔵文化財簡易調査等を実施した。</p> <p>③ｺｺｱ禍で来場者数と売上が前年対比減少となる中、新たに「さつまいも博」を屋外テントで開催し、六次化で自社商品化した干し芋や焼き芋など、地元産さつまいものPRと集客に取り組んだ。</p> <p>2 ①起業支援補助金は審査会に於いて1件の交付決定をした。ｺｺｱ経済対策では、制度を拡充した中小企業振興資金融資は2件、新設した作陶資金「大塚実基金貸付」は5件の申込があった。国の中小企業資金繰り支援制度に伴う認定申請は39件の申請があった。また、「新業態開拓等支援補助金」の申請件数は、取扱開始からの累計で106件となり予算額上限に達した。また、全町民へのﾏｼｺｶｰﾄﾞ 2,000pt.付与事業は、4,905世帯から申請があり当事業による新規会員は10,989人となり、加盟店68店舗中49店舗でポイントが利用された。</p> <p>②町内の商店街の状況について、商工会や関係者と引続き意見交換を行った。</p> <p>③新加工施設において、町内産農作物を活用した干し芋やﾄﾞﾗｲﾌﾙｰﾂを商品化した。町内飲食店からの依頼によりﾄﾞﾗｲｶｰﾄﾞなどを開発し商品化した。</p> <p>④秋の陶器市も中止になったことから、Web陶器市を開催した。総販売額は約39百万円で一日当たりの販売額は春の1.65倍と増加した。</p> <p>⑤求職者ｼﾞｬｰを9回開催し延べ68人の参加となった。</p> <p>3 ①②③DMO候補法人の事業計画や組織体制等について登録に向けた準備を進め、COOを含む人選が完了した。完売となった「益子de宿泊&amp;体験クーポン」事業の参加店舗は45店舗となった。</p>	<p>1 ①②視察内容を集落営農組合や農業生産法人の営農計画に反映できるよう、引続き支援していく。西洋野菜については、飲食店と連携した生産体制の構築を目指して検討を進めていく。里西星の宮地区土地改良事業では、年度内に追加エリアの地形図を作成し、地権者説明会に向けて準備をすすめていく。</p> <p>③ｺｺｱ禍でのさつま芋やリンゴの収穫体験が好評であったことから、収穫体験の対象農産物を増やすなど収穫体験事業を拡充することで、来場者数の増加に繋げていく。</p> <p>2 ①ｺｺｱ禍における経済環境は依然として先行き不透明であり、今後も厳しい状況が長期化するリスクに対して、町内事業者のきめ細かい把握に努め、資金繰り対策をはじめ適切な経済対策を適時実施していくことで、町内事業者の経営の安定を図っていく。</p> <p>ポイントｶｰﾄﾞ事業については、町内循環型経済を推進していくｲﾝﾌﾗであることから、更なる会員と加盟店の増加に取り組んでいく。</p> <p>②起業支援施設「チャレンジショップ」事業を立上げることで、空き店舗を活用した起業に結び付くよう取り組んでいくと共に、引続き空き店舗の発生防止対策や流動化等について検討していく。</p> <p>③ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ商品の認定基準を制定し、新たに認定機関を立上げて認定を行っていく方針であるが、日本遺産活性化協議会が今後取り組む商品開発事業との整合性を図りながら進めていく。</p> <p>④益子焼総販売額を増やすために、陶器市以外にも販売機会を強化する策を検討していく。</p> <p>⑤有効求人倍率の向上を担う専門組織の設置について検討していく。</p> <p>3 ①②③DMO設立に向けて、候補法人の登録を進めていく。観光振興策については、日本遺産活性化協議会との連携を図り、相乗効果が発揮できるよう事業を進めていく。</p>

基本目標	風土に根ざした産業をつくる	本年度総括 (第4四半期含)
------	---------------	-------------------

区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538.3(H29)	600(H30)	534.5(H30)	▲3.8
政策1	①新規就農者数(累計)	人	28	21	32	+4
	②担い手集積率	%	52.3	52.0	53.4	+1.1
	③道の駅来場者数	万人	84.0	87	69.1	▲14.9
政策2	①起業支援補助金利用件数(累計)	件	24	28	27	+3
	②空き店舗利用件数(累計)	件	7	8	8	+1
	③ブランド商品認定数(累計)	件	0	18	0	±0
	④益子焼総販売額	億円	23.0(R1)	38(R1)	23.0(R1)	—
	⑤有効求人倍率	—	0.77	1	0.60	▲0.17
政策3	①観光客入込数	万人	290.9	295	178.9	▲112.0
	②観光客宿泊者数	人	47,550	50,000	25,305	▲22,245
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,363	1,250	147	▲1,216

実施内容・成果の総括	次年度への方針
<p>平成30年度の町内総生産は534億円となり基準値の平成24年度から12億円増加したが、目標値を上回ること出来なかった。平成30年度までの5年間の産業別シェアの推移は、第一次及び第二次産業が伸び、第三次産業がシェアを落とした。</p> <p>1 ①新規就農者の掘り起こしやきめ細かなフォローに努めた結果、累計で32人となり目標を上回る結果となった。</p> <p>②土地改良事業による圃場整備や農業委員等との連携による農地のマッチング等に取り組んだ結果、担い手集積率は53.4%となり目標を上回った。</p> <p>③コロナ禍での営業自粛やイベントの中止など集客に制約がある環境下で、道の駅来場者数は約69万人(前年度対比82.3%)となった。一方、売上についてはドライブスルーや宅配サービス等の取組により、前年度並みを確保できる見込みである。</p> <p>2 ①起業支援補助金は令和2年度に3件の交付を決定し、利用件数は累計で27件となった。商工会と連携して制度の周知に努めたが、目標対比では1件の未達となった。</p> <p>②起業支援と併せて空き店舗の利用促進に取り組んだ結果、目標の累計8件を達成することが出来た。</p> <p>③トトカレーやさつまいもを活用したスイーツなど27商品を開発し販売に結びつけた。ブランド商品認定については、日本遺産活性化協議会が取り組んでいる商品開発事業との整合性を図りながら引続き検討していく。</p> <p>④新商品開発やフォトコンテストなどの周知に努めてきたが、今後は「ましこラボ」も活用し、販売額の増加に結び付く施策を検討していく。</p> <p>⑤コロナ禍で合同就職面接会が中止となり、有効求人倍率も大きく低下した。現状を分析し、新たに雇用創造事業に取り組んでいく。</p> <p>3 ①②③コロナ禍で観光関連の実績値は目標を大きく下回る結果となった。新設した「ましこラボ」等と連携し、アフターコロナを見据えた取組をしていく。</p>	<div style="text-align: center; font-size: 2em;">/</div>

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の確立		
施策	農業生産体制の整備	進捗状況	100%		
KPI	新規就農者数 (H26年度からの累計)	本年度目標値	21人	現状値	32人
KPI	担い手集積率	本年度目標値	52.0%	現状値	53.4%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを随時行なう。	①②4/6～9他、果樹産地協議会事業 (大羽果樹団地内遊休ぶどう園整備) ③4/14集落営農組織に関する打合せ ①②4/15果樹産地協議会事業打合せ ④4/20小泉・本沼地区土地改良事業地区委員会		
	5月	①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対して、農地利用や集積面積の拡大、営農計画等の指導・支援を行なう。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する施設園芸作物、土地利用型園芸作物の作付けを推進する。	①②④5/1地域おこし協力隊1名が新たに着任し、樹園地継承事業 (ぶどう) に従事する。 ①～④5/8小泉・本沼地区土地改良事業第1回営農部会 ④5/18本沼地区工事説明会 ①②5/25樹園地継承に係る打合せ ①～④5/26小泉・本沼地区営農意見交換会事前打ち合わせ (振興事務所・JA) ①～④5/29小泉・本沼地区営農意見交換会		
	6月	里西・星の宮地区及び西明寺地区土地改良事業を推進する。	④6/2里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会		
	7月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを随時行なう。	④7/28小泉本沼集落営農組合人参・しょうがの現地検討会を実施した ④小泉本沼集落営農組合に産地づくりモデル地域育成事業費補助金 (ハード・ソフト) の交付決定を行なった		
	8月	①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対して、農地利用や集積面積の拡大、営農計画等の指導・支援を行なう。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する施設園芸作物、土地利用型園芸作物の作付けを推進する。	①②ぶどうの樹園地継承事業の出荷などのフォローアップを行った ④8/6 8/24里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会		
	9月	里西・星の宮地区及び西明寺地区土地改良事業を推進する。	④9/8 小泉本沼集落営農組合のしょうがの現地検討会を実施した。 (加工・販売会社の大豆食品の参加あり) ①③9/28 集落営農組織・農業生産法人の会議を実施し、意見交換を行った		
	10月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを随時行なう。	④小泉本沼集落営農組合営農会議 ④10/10益子しょうが研究会の現地検討会を実施した ④各集落営農組合・農業生産法人を対象に土地利用型園芸 (露地野菜) の 推進に係る現地視察研修を実施 ④里西集落営農組合の直売所開設打ち合わせを実施		
	11月	①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対して、農地利用や集積面積の拡大、営農計画等の指導・支援を行なう。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する施設園芸作物、土地利用型園芸作物の作付けを推進する。	①②若手農家を対象に種苗会社に西洋野菜の視察を実施した ①②福祉施設を対象にイチジクの視察研修を行う。 ④里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会の開催		
	12月	里西・星の宮地区及び西明寺地区土地改良事業を推進する。	④小泉本沼集落営農組合 にんじんしょうが出荷反省会実施 ④小泉本沼集落営農組合の圃場整備後の営農体制について話し合いを実施 ④小泉本沼土地改良事業工事現場会議 ④里西・星の宮土地改良地区埋蔵文化財簡易調査		
	1月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを随時行なう。	①③益子町の集落営農組織等における露地野菜作付拡大研修会実施 ③④小泉本沼集落営農組合営農体制の打ち合わせ実施 ④しょうが次年度の販路検討会実施 ④1/6本沼工事代理人会議 ④1/20小泉本沼土地改良地区委員会		
	2月	①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対して、農地利用や集積面積の拡大、営農計画等の指導・支援を行なう。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する施設園芸作物、土地利用型園芸作物の作付けを推進する。	①～④2/16 小泉・本沼営農部会 さつまいも講習会実施 ④2/16 小泉本沼土地改良地区委員会		
	3月	里西・星の宮地区及び西明寺地区土地改良事業を推進する。	①～④3/11小泉本沼地区営農部会 さつまいも講習会実施 ①～④3/16小泉本沼さつまいも加工現地研修会 (ひたちなか市)		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①～④畑地帯総合整備事業や露地野菜等の生産振興に関して、産地づくり基本構想事業のにんじん、しょうがの栽培が継続して実施されている。耕作者の高齢化が進む中、意見交換会や技術検討会により、集落の中でコミュニケーションを図り組織で営農計画を立てることが必要である。小泉・本沼地区土地改良事業では、今年度本沼地区畑地帯の区画整理工事を実施する予定。面積は約15ha。小泉地区においては、8月に埋蔵文化財発掘調査に入る。実施主体は栃木県埋蔵文化財センター。今後、両地区の畑地帯の生産調整が必要となる。里西・星の宮地区土地改良事業については、基礎調査として生き物調査を実施した。</p>	<p>①～④畑地帯総合整備事業に係る生産作物の導入に関しては、産地づくりで栽培を開始したしょうが、にんじんのほかにも営農検証を行なうなどし、継続性や生産性が高い品目の選定を検討する。また選定にあたっては小泉本沼地区の法人化と併せて集落全体で作業が行えるようなしくみを構築していく。小泉・本沼地区土地改良事業では、用水路整備のため、入山地区を編入していく。また、里西・星の宮地区土地改良事業では、土質調査や水路・道路の現況調査を実施する予定である。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①～④畑地帯総合整備事業や露地野菜等の生産振興に関して、産地づくり基本構想事業のにんじん、しょうがの栽培が継続して実施されている。しょうがの現地検討会ではそれぞれの生産者の圃場を巡回し生育状況から最適な栽培環境・栽培技術・防除方法などを学び、次の栽培に生かすことができる貴重な取り組みである。また加工・販売業者の現地検討会への参加は、しょうがの生産を効率的に進めるために効果がある。①③町内の4集落営農組合と3法人が初めて一堂に会し情報交換を行った。高齢化と担い手不足という共通の課題がある中、横の連携を強化するために有意義な会合になった。④里西・星の宮土地改良事業地区で追加エリアの依頼が推進協議会よりあった。</p>	<p>①～④今後も加工・販売業者と連携し、ニーズに合った農産物の生産を進めていくことが重要である。また道の駅・加工施設と情報を共有し、にんじん・しょうが以外の需要のある品目の選定について検討する必要がある。県との連携を図り、土地利用型の園芸作物の視察を行い、生産者の視野を広げ、生産意欲を高めるよう働きかけることも必要である。また各組合・法人については今後は垣根を越えた事業実施も不可欠になるため情報交換の場を積極的に設けていきたい。④里西・星の宮地区土地改良事業については、今年度までに追加エリアの地形図（平面図）を作成する必要がある。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①～④畑地帯総合整備事業や露地野菜等の生産振興に関して、産地づくり基本構想事業のにんじん、しょうがの栽培が継続して実施されている。しょうがの現地検討会では出荷に合わせて目揃え会を行い、生産者が一堂に会し情報を共有することにより効率的に出荷を行うことができた。天候不良によって不作となったにんじんでは、栽培経過の振り返りと次期作の課題について反省会を実施した。農業振興事務所の指導員の専門的な意見を聞くことができ、有意義な会合となった。各集落営農組合や農業生産法人を対象に実施した露地野菜の現地視察研修では、先進農家との意見交換を通して、よりリアルに営農計画を描く機会となった。里西・星の宮地区文化財簡易調査については、里西畑地に須恵器のかけらが数点見られた。星の宮畑地についてはほとんど見受けられなかった。</p>	<p>①～④各集落営農組合・農業生産法人を対象実施した露地野菜の視察では、先進地ならではの品目の選定方法や、労働力の確保、機械購入などについて実践を通した先進農家の声を聞くことができ、今後の営農に活かせる有益なものとなった。各集落営農に持ち帰り営農計画に組み込めるよう、引き続き支援が必要である。若手農家を対象にした西洋野菜研究会では、今後飲食店からのオーダーによる生産を視野に入れた栽培の研究を農業振興事務所と連携して行っていく予定である。里西・星の宮地区の土地改良事業については、年度内に追加エリア地区の地形図を作成し、その後地権者説明会や意向調査を行う予定である。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①～④畑地帯総合整備事業や露地野菜等の生産振興に関して、産地づくり基本構想事業のしょうがの販路について検討を実施した。コロナ禍で加工業者が苦戦する中、リスクを分散するためにも多様な販路を開拓する必要がある。3月のさつまいも講習会では、先進地から講師を招き栽培方法や出荷方法まで詳しく話を聞くことができた。町内各所からさつまいも栽培を始める農家を招集したため、活発な議論が行われ大変有意義な講習会となった。</p>	

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	内部検証および外部検証結果を踏まえ、取組を継続していく。
	第2四半期	②意見・提言 ・KPIを達成しているため、このまま継続されたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・4委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・0委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・0委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員	
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 ・KPIを達成している。  ・新規就農者数、担い手集積率は計画以上の成果を上げており、今後も継続すべき。今後は各農家が経済的に自立し、地域の生産性が高まる取組にも注力されたい。	

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の確立		
施策	地域農産物の販路開拓	進捗状況	100%		
KPI	道の駅来場者数	本年度目標値	87万人	現状値	69.1万人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な取組内容	4月			①～⑦施設運営者である株式会社ましこカンパニーと指定管理者制度に基づく管理運営協定を締結した。 コロナウィルスの影響でGW期間中は営業を休止したが、施設運営者がドライブスルー・宅配・貨客混載により野菜の販売を行った。	
	5月	①～⑦道の駅の施設運営者と業務仕様及び協定書に基づき管理運営協定を締結し、町は施設運営者が道の駅で行う事業を支援する。 農業に関する生産の振興と販路開拓及び商品確保に向けた事業検討を行なう。		①～⑦ コロナウィルスの影響でGW期間中は営業を休止したが、施設運営者がドライブスルー・宅配・貨客混載により野菜の販売を行った。 テイクアウトランチの開始。 飲食の飛沫感染防止のため客席間にスペースを設ける。	
	6月			①～⑦ サラダウィークを開催。 7月からのレジ袋有料化に向けて準備 自社農園のとうもろこし販売 宿泊・体験クーポンの農業体験の準備 カフェメニューの増加	
	7月			①～⑦ オンラインショップを強化するため送料を無料とした。 貨客混載事業によるバス輸送を実施	
	8月	①～⑦道の駅の施設運営者と業務仕様及び協定書に基づき管理運営協定を締結し、町は施設運営者が道の駅で行う事業を支援する。 農業に関する生産の振興と販路開拓及び商品確保に向けた事業検討を行なう。		①～⑦ 収穫体験（ブルーベリー、枝豆、とうもろこし、ひまわり）参加合計286人 売上 111,300円	
	9月			①～⑦ 栃木県産いちご輸出新規プロジェクトについて県の担当者と打ち合わせを実施 10月からの貨客混載事業の新規取組（都内への個別販売）の打ち合わせを実施	
	10月			①～⑦ 周年祭を開催。（10/15.17.18）外テントでの果樹の販売、新米の販売を実施。 自社商品（ドライフルーツ）の新発売。 さつまいも・りんご収穫体験。 いちごの輸出事業打ち合わせ。（10/14）	
	11月	①～⑦道の駅の施設運営者と業務仕様及び協定書に基づき管理運営協定を締結し、町は施設運営者が道の駅で行う事業を支援する。 農業に関する生産の振興と販路開拓及び商品確保に向けた事業検討を行なう。		①～⑦ さつまいも博実施（10/21～23）外テントでさつまいもを販売。 自社商品（干し芋）の新発売。 いちごの新品種の出荷により、売り上げ増加 いちごの輸出事業打ち合わせ。（11/11）	
	12月			①～⑦ いちごの輸出事業打ち合わせ。（12/21）	
	1月			①～⑦いちごドライブスルー、宅配サービスの実施	
	2月	①～⑦道の駅の施設運営者と業務仕様及び協定書に基づき管理運営協定を締結し、町は施設運営者が道の駅で行う事業を支援する。 農業に関する生産の振興と販路開拓及び商品確保に向けた事業検討を行なう。		①～⑦ 宅配サービスの実施（1/28～2/28）雄武町海産物、元気寿司他 売上 1,338,646円 2/10 海外輸出いちご初出荷 いちごドライブスルー 1月上売55.3万円、2月上売20.6万円 いちごフェアの開催（2/20～2/28）売上2,852,161円(前年対比160%)	
	3月			①いちご狩り ①3/3 いちご海外輸出	

	<p>③担当課の点検・検証                  ( ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。 )</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①～⑦                  コロナウィルスの影響によるGW中の営業自粛により、4.5月の対前年比の売り上げが55%と大幅に落ち込んだが農家救済措置として実施したドライブスルーや貨客混載の各取組がメディアに取り上げられPRに繋がった。                  非常事態宣言解除後の6月は対前年比の売り上げが98%となったがコロナが完全に終息したわけではないため、店頭以外での販路の充実化を図ることが必要である。併せて観光協会等で実施する宿泊・体験クーポンの実施、各種イベントの再開に向けて、来場者・地元住民の双方が安心できる対策をとりつつ顧客満足度を高めることが必要になってくる。</p>	<p>①～⑦                  7月からは移動の自粛が緩和され制限が少しづつ解かれることになり、各種イベントも再開されるが、新しい生活様式による感染症予防の徹底を図りながら、来訪者と丁寧なコミュニケーションを図り、互いに継続的な信頼関係を深め、益子のファンとなってもらえるよう取り組んでいく。                  コロナが終息するまでは、安全・安心な環境で来場者を迎えることに重点を置いていきたい。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①～⑦                  農産物及び一般商品の売り上げ実績(第1四半期)は87,005,482円であり、前年対比96%台を推移。コロナウィルスの影響が続き、例年実施しているイベントが相次いで中止になり、集客に大きな打撃を与え、8月の売り上げは前年対比98%となった。そのような状況の中で町内農家と連携をとり実施した各種収穫体験は、三密を避けたレジャーとして参加者からの評判もよく改めて今後需要が高まる事業であることを実感できた。</p>	<p>①～⑦                  ウイズコロナの中、消費者の行動や需要の変化を察知し事業の見直しについて検討していきたい。観光客向けとしての商品から地元の消費者が求める商品への転換やオンライン商品の充実を図ることも必要である。また三密を回避した農業体験は今後需要が伸びる可能性があるため、商品として価値のある内容となるよう精査することも重要である。また新たな販路開拓として都内や海外への進出の取り組みが始まるが、関係機関と連携を取り、積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①～⑦                  農産物及び一般商品の売り上げ実績(第2四半期)は122,414,138円であり、前年対比110%台を推移。10月は前年比128%、11月は陶器市の中止にも関わらず108%と売り上げは伸びている。コロナウィルスの影響が続き、誘客の促進となっていた試食が実施できない中、ポップの充実など新たな誘客方法を試み、売り上げ増につながったと思われる。売り場においては各果物の品種や新米の生産者をポップで分かりやすく表示し、イベントでは果樹・さつまいもの販売を生産者が行い、消費者との交流を通して農産物に生産者の思いなどの付加価値を付けて販売することができた。                  また、なしの不作による品不足を事前に予想し品物を切らさず対処することができた。                  今回、店頭での焼き芋を販売開始したが大盛況であった。</p>	<p>①～⑦                  さつまいもやリンゴの収穫体験は好評であり、ウィズコロナの中、需要が高まる事業と思われるため、内容の充実や見直しを図っていきたい。                  また、売り場のポップ・生産者との交流は消費者の買い物を楽しむ「購買付加価値」を高めるために有効であるため、今後も継続して取り組んでいきたい。                  いちごの輸出事業については、新たな取り組みであるため、県やバイヤー、生産者と連携をとり、1月の初出荷を目指し一步一步確実に進めていきたい。                  焼き芋は盛況により品不足となったため、次年度の増量を検討する必要がある。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①～⑦                  農産物及び一般商品の売り上げ実績(第3四半期)は、139,173,901円であり、前年対比114%台を推移。2月は前年比109%、3月は110%と緊急事態宣言が発令されている中で売り上げを伸ばした。コロナ禍により販売方法が制限される中実施した、いちごドライブスルーや宅配サービスなどの取組がメディア等に取り上げられたことが功を奏したと考えられる。</p>	<p style="text-align: center;">/</p>

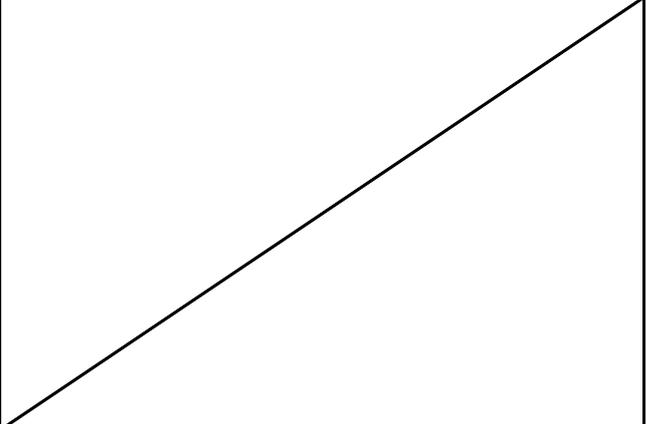
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 地元の消費者向け商品の充実、オンライン商品の充実、送料無料化など、消費者の変化に対応した取組ができていると思われる。	内部検証および外部検証結果を踏まえ、取組を継続していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・4委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・0委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員 ②意見・提言 ・コロナ禍のため人の移動が少ないため仕方ない。 ・コロナの影響が大きいため。 ・コロナ禍においても一定水準の成果を上げており、各種取組の成果はあったといえる。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	商店の活性化と起業支援の充実	進捗状況	100%		
KPI	起業支援補助金利用件数 (H26からの累計)	本年度目標値	28件	現状値	27件
KPI	空き店舗利用件数 (H26からの累計)	本年度目標値	8件	現状値	8件
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月		①補助金問合せ1件 ②融資申込件数3件 ③ポイントカード事業打合せ (4/17) ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	5月	①起業支援補助金制度の周知 ②商工会と連携し起業者の指導依頼、後継者育成や融資制度の周知 ③ポイントカード”mashipo”事業の推進 ④求人情報、起業支援情報、空き店舗状況等の情報収集及び発信	①補助金問合せ1件 ②融資申込件数2件 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	6月		①補助金問合せ1件 ②融資申込件数2件、商工会と町との共同セミナー開催について相談 (英会話等) ③ポイントカード定例打合せ (6/3.10.17.25)、機械導入後の店舗回り ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	7月		②融資申込件数2件 ③mashipoカード定例会等開催 (7/1.8.29) ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	8月	①起業支援補助金制度の周知 ②商工会と連携し起業者の指導依頼、後継者育成や融資制度の周知 ③ポイントカード”mashipo”事業の推進 ④求人情報、起業支援情報、空き店舗状況等の情報収集及び発信	①補助金問合せ1件。企業支援補助金審査会実施 (8/25、2件) ②融資申込件数3件 ③mashipoカード定例会等開催 (8/3.5.6.7.12.31)、臨時総会開催 (8/21) ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	9月		①補助金問合せ2件 ③mashipoカード定例会等開催 (9/1.10.23)、加盟店端末設置作業、町民へのポイント付与チラシ自治会回覧PR ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	10月		③全町民2,000ポイント付与全世帯通知発送、付与事業の遂行 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	11月	①起業支援補助金制度の周知 ②商工会と連携し起業者の指導依頼、後継者育成や融資制度の周知 ③ポイントカード”mashipo”事業の推進 ④求人情報、起業支援情報、空き店舗状況等の情報収集及び発信	②融資申込件数1件 ③全町民2,000ポイント付与事業の遂行 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	12月		①起業支援補助金審査会実施 (12/18、1件) ②融資申込件数1件 ③全町民2,000ポイント付与事業の遂行 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	1月		①起業支援補助金額の確定1件 ②融資申込件数1件 ③全町民2,000ポイント付与事業の遂行 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	2月	①起業支援補助金制度の周知 ②商工会と連携し起業者の指導依頼、後継者育成や融資制度の周知 ③ポイントカード”mashipo”事業の推進 ④求人情報、起業支援情報、空き店舗状況等の情報収集及び発信	③全町民2,000ポイント付与事業の遂行 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		
	3月		①起業支援補助金の額の確定1件 ②融資申込件数3件 ③全町民2,000ポイント付与事業の遂行 ③ポイントカード事務局会議 (町・道の駅・商工会・DMO) 3/25 ④月3回役場ホール、道の駅等に求人情報誌を設置		

	<p>③担当課の点検・検証                      ( ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。 )</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>③4月にポイントカードをスタートすることができた。                      ④求人情報誌が届いたら速やかに役場ホールや道の駅等に設置。関係施設等に今後、設置依頼をする。</p>	<p>③ポイントカード加盟店へ訪問しフォローを続け、また新規加盟店を増やせるようPRを図る。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①起業支援補助金の申請者2件の審査をして交付決定することができた。                      ③各月の定例会等を開催し、10月からのやまゆりの会新加盟店スタートをする為の準備、及び全町民Mashipoカード2,000ポイント付与事業準備を推進した。                      ④求人情報誌が届いたら速やかに役場ホールや道の駅等に設置。関係施設等に随時設置依頼をする。</p>	<p>①起業支援補助金の問い合わせに対し、申請に向けてのフォローや周知を図る。                      ③Mashipoカード加盟店の端末操作等のフォローを続け、また10月から町民への2,000pt付与事業をスムーズに行う。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①起業支援補助金の申請者1件の審査をし、交付決定することができた。                      ③全町民2,000ポイント付与事業での全世界帯通知発送を行い、日々返送されてくる申請書受付後の付与作業及びカード送付作業の対応がスムーズにおこなえている。                      ④求人情報誌が届いたら速やかに役場ホールや道の駅等に設置。関係施設等に随時設置依頼をする。</p>	<p>①起業支援補助金の問い合わせに対し、申請に向けての周知を図る。                      ③Mashipoカード加盟店の端末操作等のフォローを継続する。また全町民への2,000Pt付与事業完了に向け業務遂行を図る。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①起業支援補助金の申請者に対し、補助金の額の確定をし、支払うことができた。(製造販売業、宿泊業)                      ③全町民2,000ポイント付与事業での全世界帯通知発送を行い、日々返送されてくる申請書受付後の付与作業及びカード送付作業の対応がスムーズにおこなえた。(申請期日：2/1消印有効)                      ④求人情報誌が届いたら速やかに役場ホールや道の駅等に設置。関係施設等に随時設置依頼をする。</p>	

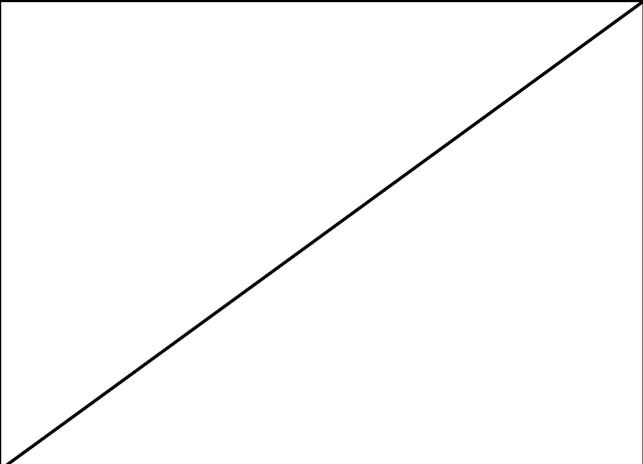
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	商工会などからの情報収集に努め、起業支援補助金の事業を遂行していきたい。 全町民へのポイント付与カード配布という、地域経済にとって重要な事業となるため、業務遅延の無いよう努めていきたい。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A:目標を達成・・・2委員 B:目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・2委員 C:成果が見えず取組を継続すべき・・・0委員 D:成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員 ②意見・提言 ・KPIを概ね達成している。 ・今後も継続希望 ・コロナ禍のため起業する方が躊躇しているのは仕方ない。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	ものづくりの育成・支援	進捗状況	100%		
KPI	ブランド商品認定数（累計）	本年度目標値	18件	現状値	0件
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月	①新加工施設において商品開発事業の実施主体が地域農産物を活用した商品の開発、受託を行う。食品分野における認証制度の運用を検討する。	①商品開発事業について、受託者である(株)ましこカンパニーに対し、交付決定を行なった。 ①新加工施設の厨房機器設備設置委託費の財源である「小さな拠点づくり」事業補助金の交付申請を行った。 ①新加工施設に向け営業用パンフレット、受託製造パンフレットの制作に着手した。		
	5月		①新加工施設に稼働に向けて、設備搬入設置を実施。 ①新加工施設の衛生マニュアル、製造マニュアルの整備を行い稼働に向けてスタッフのオペレーションが円滑に進むようスタッフと打ち合わせを実施した。		
	6月		①6月1日の稼働により、各方面からの視察があり対応を行った。 ①町内の法人よりアスパラガスの加工・商品の開発について相談あったため、商品化のために試作を行った。 ①町内外から受託加工の相談があり対応した。		
	7月	①新加工施設において商品開発事業の実施主体が地域農産物を活用した商品の開発、受託を行う。食品分野における認証制度の運用を検討する。	①町内の飲食店からカレーのレトルトの販売の相談があり試作を実施した ①受託事業のマニュアルを整備した ①受託事業の相談受付・視察受付		
	8月		①次年度に向けた営業用サンプル（ペースト・レトルト）製造 ①町内産ほしいもの試作実施 ①町外産桃のジャムテスト製造 ①受託事業の相談受付・視察受付 ①町内飲食店のレトルトカレー製造を実施した ①町内産ブルーベリーの冷凍品製造（ふるさと納税用）		
	9月		①町内の飲食店2ヶ所のレトルトカレーの試作を実施した ①衛生マニュアル（ハサップ申請）の準備を行う ①都内イタリアンレストランの既存商品の改良化の試作実施 ①町外産ぶどうの干しぶどう、ナツハゼのジャムの試作実施 ①自社商品の試作（町内産なし・りんごのドライフルーツ、バターナッツ味とろたまタルト） ①受託事業の相談受付・視察受付		
	10月	①新加工施設において商品開発事業の実施主体が地域農産物を活用した商品の開発、受託を行う。食品分野における認証制度の運用を検討する。	①干し芋・やき干し芋、丸干し芋、犬用干し芋の製造開始 ①なし、りんご、ぶどうのドライフルーツ製造・販売 ①各種受託（町内産飲食店のカレー製造）		
	11月		①干し芋・やき干し芋、丸干し芋、犬用干し芋の販売開始 売上個数 1281個 売上金額 44万円 ①焼き芋も製造販売開始 ①各種受託（町内産飲食店のカレー製造）		
	12月		①干し芋・やき干し芋、丸干し芋、犬用干し芋の製造販売 売上個数 1905個 売上金額 62万円 ①各種受託（町内産飲食店のカレー製造・販売、チューブ型辛みそ、チューブ型ブルーベリー他）		
	1月	①新加工施設において商品開発事業の実施主体が地域農産物を活用した商品の開発、受託を行う。食品分野における認証制度の運用を検討する。	①レトルトカレー 196袋販売 ①丸干しいも販売開始、スイートポテト開発 ①各種一次加工品の開発・製造		
	2月		①新商品冷凍焼き芋を開始 ①焼き芋スイートポテト販売開始 ①メレンゲ菓子のテスト販売 ①益子産イチゴピューレを使用したジェラートの開発 ①黒糖釜プリンの開発		
	3月		①スイートポテトスティックの販売 ①各種一次加工品の開発・製造		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①旧・新加工施設の運営管理は指定管理者が適正に行なっている。新加工施設に関しては、営業許可を多数取得し、複合的な加工を可能にする各種設備を備えているため、町内はもとより町外からも注目されている。町内から依頼のあった商品開発を手始めに確実な実績を作り、徐々に町外に広げていくことが信頼性を高めるために重要である。 特に原材料の安定した供給を図るためには郡内・県内の広域的なつながりが必要になるが、受託・視察に関しては収益性を鑑み適正な料金設定やクライアントの選定をすることも必要になってくる。</p>	<p>①新加工施設では、顧客ニーズを踏まえかつマーケティング・ブランディングに基づいた商品づくりを行っていく。 また、消費者や取引先の信頼を獲得し、商品のブランド力を高めるために衛生管理を徹底しとちぎHACCP認証を取得することを目標とする。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①旧・新加工施設の運営管理は指定管理者が適正に行なっている。新加工施設については稼働以来、町内外より視察や受託の相談が多数寄せられており、レシピ開発、試作を経て検討中のもの、商品化して販売に至ったものがある。 小ロットから製造可能という強みを生かして、町内外の農産物に付加価値を付けた新商品を開発することは、農産物生産者の収益向上や食品ロスの削減に貢献するものである。また飲食店のレトルト食品の製造はコロナ禍の中で内食ビジネスへの進出を促進し経営の安定化を図るために有効である。</p>	<p>受託の相談件数は今後も増加が予想されるが、相談対応にはスキル・経験が必要になるため、マネージャー1人が対応している現状では限界が生じる可能性がある。人材の確保が今後の課題となっている。都内の飲食店からの受託は、加工品の受託のみならず農産物の注文生産を視野に入れ、生産者や飲食店をつなぐチェーンマネージャーとしての役割を担うことが益子町の町内総生産を増やすために重要とになってくる。コロナ禍の中で需要の変化を認識し、これまで製造してきた商品の変更の検討も必要になる。新規商品・既存商品のブランディングを確立するためパッケージリニューアルを検討していく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①旧・新加工施設の運営管理は指定管理者が適正に行なっている。町内外からの受託を請け負い新商品を開発・販売した。特に道の駅の主力商品として、干し芋焼き芋を開発、製造したが、予想以上の反響があり製造が追いつかず品切れが発生するほどであった。コロナによる客層の変化を見定め、近隣からの客層をターゲットにした商品開発が功を奏したといえる。また新加工施設の設備を活用したチューブ型の新商品は、既存の人気商品について、冷蔵販売から常温での販売を可能にするものであり、多様なシーンでの消費の促進を期待できる。</p>	<p>干し芋、焼き芋の売り上げが好調であるため、皮むきの作業員が不足する事態が生じた。今後はさつまいもの作業をはじめ単純作業については農福連携を活用し福祉施設に作業委託を検討し、コストと安定製造の両立を図っていきたい。また季節ごとの道の駅の主力商品を検討していく上で生産者との連携が必要不可欠になる。生産者と情報交換を行い、新たなフードバリューチェーンの構築を図る必要がある。 コロナの影響で客層の変化のほかにも外食から内食への需要の変化が生じており、レトルトカレーの売り上げが好調であった。今後はお土産品として価値を高めるようパッケージを検討していきたい。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①旧・新加工施設の運営管理は指定管理者が適正に行なっている。町内外からの受託を請け負い新商品を開発・販売した。レトルトカレーはコロナ禍で外食から内食への需要の変化の影響があり、1月は前月と比較し2倍近くの販売数を記録し、受託製造によるカレーの注文数も増加した。 また、さつまいもを活用したスイーツの商品を多数開発することができた。 コロナ禍の中で新たにテイクアウトを開始した飲食店に対して、技術指導・開発支援を行った。町内のスモールビジネスの推進の役割を担うことができた。</p>	

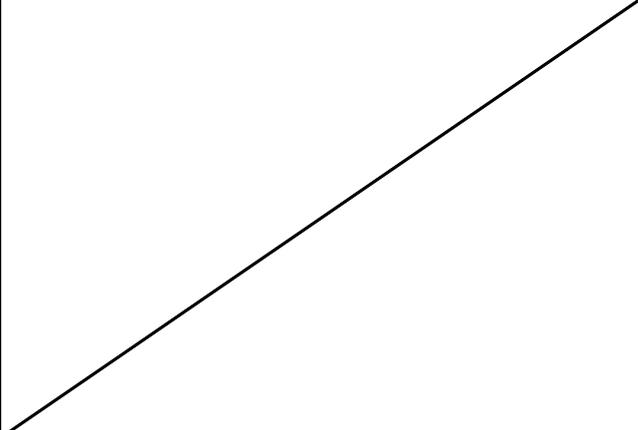
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	内部検証および外部検証結果を踏まえ、取組を継続していく。
	第2四半期	②意見・提言 ・新加工施設を活用した商品開発に期待したい。 ・外部のPR会社や企画会社との連携も検討できないか。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・0委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・3委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・1委員	
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 ・ブランド化をするのは消費者に良い影響を与えるため、ぜひ進めていただきたい。 ・日本遺産活性化協議会の商品開発事業との整合性を図る必要があるのか。 ・商品開発は、プロダクトアウトからマーケットインの考え方に移行している。市場ニーズ、消費者ニーズをキャッチし、「売れる」商品づくりが必要。「地域ブランド」に執着する必要はないのか。	

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	ものづくりの育成・支援	進捗状況	100%		
KPI	ブランド商品認定数（累計）	本年度目標値	18件	現状値	0件
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な取組内容	4月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④コロナ禍による春の陶器市中止を受け、益子WEB陶器市実行委員会において益子焼ネット販売「益子春の陶器市（WEB版）」を実施 4/29-5/20		
	5月	①ブランド認定組織を立ち上げ、認定基準作りの推進 ②手仕事バンクウェブサイト人材紹介、PR ③インキュベーションセンターの検討 ④手仕事・伝統工芸品のPR（他工芸産地との協力）	②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④益子WEB陶器市実行委員会において益子焼ウェブ販売「益子春の陶器市（WEB版）」を実施 4/29-5/20		
	6月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会幹事会「事業計画・事業予算について」 6/26 ④かさましこウェブサイト「陶の里かさましこ」へ陶芸メッセ企画展「英国で始まり」を掲載し情報発信を図った。6/15 ④日本遺産認定により、かさましこの焼物文化の更なる振興を図る		
	7月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会総会「事業計画・事業予算について」7/8 ④かさましこ日本遺産活性化協議会総会「事業計画・事業予算について」7/31。活性化協議会と連携し窯業文化の更なる振興を図る。かさましこウェブサイト「陶の里かさましこ」へ、かさましこ日本遺産認定の記事を掲載		
	8月	①ブランド認定組織を立ち上げ、認定基準作りの推進 ②手仕事バンクウェブサイト人材紹介、PR ③インキュベーションセンターの検討 ④手仕事・伝統工芸品のPR（他工芸産地との協力）	②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ日本遺産活性化協議会と連携し窯業文化の更なる振興を図る。 ④陶器市実行委員会にて「益子秋のWEB陶器市」の開催が決まる。8/26		
	9月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会総会担当者会議 9/18		
	10月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④益子WEB陶器市実行委員会2020秋開催 10/31-11/10 参加事業者222件（町内165件・町外県内37件・県外20件） ④日本遺産活性化協議会（観光振興WG会議）10/16		
	11月	①ブランド認定組織を立ち上げ、認定基準作りの推進 ②手仕事バンクウェブサイト人材紹介、PR ③インキュベーションセンターの検討 ④手仕事・伝統工芸品のPR（他工芸産地との協力）	②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会「かさましこ焼き物語バスツアー」笠間市会場 参加（益子町民限定）参加費1,500円 20名 ④益子WEB陶器市実行委員会2020秋開催 10/31-11/10 参加事業者222件（町内165件・町外県内37件・県外20件）		
	12月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会「かさましこ焼き物語バスツアー」益子町会場 参加（笠間市民限定）参加費1,500円 20名 ④日本遺産活性化協議会（観光振興WG会議）12/17 ④日本遺産サイクルツーリズム調査 益子笠間コースモニター3名実施 12/26		
	1月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会担当者会議 1/19中止 「観光誘客事業の中止・観光マップ制作について」書面承諾 1/28 ④日本遺産商品化セミナー ①1/28 ④日本遺産サイクルツーリズム調査 益子コースモニター3名実施 1/29 ④日本遺産サイクルツーリズム調査 益子笠間コースモニター3名実施 1/31		
	2月	①ブランド認定組織を立ち上げ、認定基準作りの推進 ②手仕事バンクウェブサイト人材紹介、PR ③インキュベーションセンターの検討 ④手仕事・伝統工芸品のPR（他工芸産地との協力）	②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④日本遺産ラーニングパッケージセミナー ①2/3 ②2/10 ③2/25 ④日本遺産商品化セミナー ②2/7 ③2/17 ④日本遺産消費動向調査 実施場所：道の駅ましこ		
	3月		②手仕事バンクHP掲載紹介（18名） ④かさましこ観光協議会「かさましこ観光MAP」日本遺産ロゴを採用し、内容を一新し増刷する。 日本語10,000部（益子町分2,500部）英語5,000部（益子町分1,500部） ④かさましこウェブサイト「陶の里かさましこ」へ陶芸メッセ企画展「加守田展」を掲載し情報発信を図った。3/3 ④日本遺産サイクルツーリズム調査 WEBアンケート調査 サンプル		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
	<p>②道の駅での手仕事バンク展示企画開催（8月～10月）に向けての準備</p> <p>④かさましこ日本遺産認定を受けブランドを活用したしPRを推進する</p> <p>④益子WEB陶器市実行委員会2020春 4/29-5/20 実績 販売額47,366千円 注文数5,983件</p> <p>④日本遺産活性化協議会プロモーション事業としてかさましこの焼き物のブランディング・食とのコラボプロモーションが計画されている。</p>	<p>②手仕事人材バンク紹介者の増を目指す。</p> <p>④日本遺産活性化協議会と連携し、効果的なPRに努める</p> <p>④益子WEB陶器市は益子焼の新たな販路開拓となった。今後の事業継続については事業主体・関係者等と協議し検討していく</p> <p>④日本遺産関連プロモーション事業においては、かさましこ観光協議会と連携を図り推進していく</p>
<p>第 2 四 半 期</p>	<p>②道の駅の手仕事バンク展示企画開催（9月～11月）の資料提供</p> <p>④かさましこ日本遺産認定を受けブランドを活用したしPRを推進する</p> <p>④益子春のWEB陶器市につづき、秋のWEB陶器市開催が決定。開催日10/31-11/11。出品参加者数226件(10/12現在)。WEB陶器市実行委員会主催。</p>	<p>①ブランド商品認定の制度作成に取り組み、事業推進に努める。</p> <p>②手仕事人材バンク紹介者の増を目指す。</p> <p>④日本遺産活性化協議会と連携し、効果的なPRに努める。</p> <p>④秋のWEB陶器市への協力・支援を行う。益子WEB陶器市は益子焼の有効的な販路として今後も継続していける事業体制を推進していく。</p>
<p>第 3 四 半 期</p>	<p>②道の駅による「ましこの手仕事展」企画開催協力（9/5-11/8）</p> <p>④益子WEB陶器市実行委員会2020秋開催 10/31-11/10 12/18現在 販売額38,592千円 注文数3,759件</p> <p>④かさましこ観光協議会「かさましこ焼き物語バスツアー」においては、益子町・笠間市双方の日本遺産構成文化財を巡るツアーを実施し、互いの文化資産を学ぶ有意義な事業となった。</p>	<p>①ブランド商品認定制度事業の内容を協議検討する。</p> <p>②手仕事人材バンク紹介者の増を目指す。</p> <p>④益子WEB陶器市の運営体制について効率化を図り、自走していける事業性を検討する。</p> <p>④かさましこ日本遺産認定のブランド力を誘客に繋げていく取組みを検証する。</p>
<p>第 4 四 半 期</p>	<p>②手仕事バンクHP掲載紹介者の掲載内容等確認。</p> <p>④かさましこ観光協議会「観光誘客事業（バスツアー）」はコロナ禍の影響により中止となった。今後の誘客につながる事業として、観光MAPの制作や、ウェブサイトへの情報発信を行った。</p> <p>④かさましこ日本遺産活性化協議会における「調査事業」による基礎データの収集「セミナー」開催による人材の育成事業を実施した。</p>	

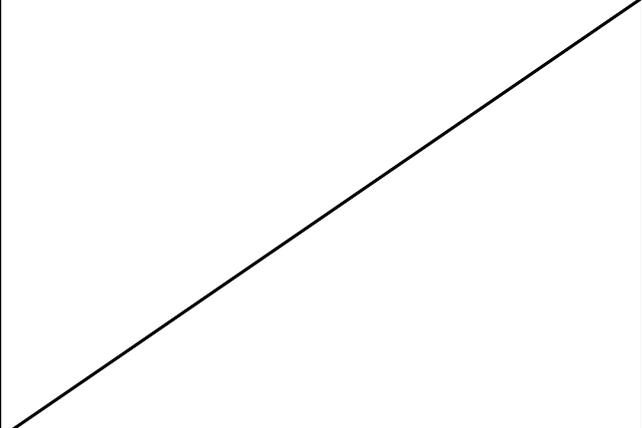
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言  ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし  ②意見・提言 ・Web陶器市を通じてPRの機会が増加したため、良いと思う。	各取組とも第2四半期の方針・改善点を踏まえ実施する。 日本遺産認定を受け、かさましこ観光協議会における窯業産業振興事業を支援し、益子焼の効果的なプロモーションを推進する。 WEB陶器市によって得られた新たな販路と顧客創出の実績を維持していくための運営体制を整えていく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A:目標を達成・・・0委員 B:目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・0委員 C:成果が見えず取組を継続すべき・・・4委員 D:成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員  ②意見・提言 ・ブランド化をするのは消費者に良い影響を与えるため、ぜひ進めていただきたい。  ・日本遺産活性化協議会の商品開発事業との整合性を図る必要があるのか。  ・コロナ長期化、価値観の変化に対応した新しい施策が必要。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	世界一が集う焼きものの町づくり	進捗状況	100%		
KPI	益子焼総販売額	本年度目標値	38億円(R1)	現状値	23.0億円(R1)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			③企画展示事業について、受託者である(株)ましこカンパニーに対し、交付決定を行なった。 ③展示場の展示替えを行ない、第1回目となる企画展示「ふたもの展」を開催した。（会期4/18～7/31）	
	5月	③事業を行う実施主体が企画展事業に着手。 ③実施者が、今期一回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、二回目となる企画展示事業の準備に着手する。		③企画展示「「ふたもの展」を継続して展示した。	
	6月			③企画展示「「ふたもの展」を継続して展示した。	
	7月			③企画展示「「ふたもの展」を継続して展示した。	
	8月	③実施者が、今期一回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、二回目となる企画展示事業の準備に着手する。 ③実施者が、今期二回目となる企画展示事業を実施する。		③企画展示「「ふたもの展」を継続して展示した。	
	9月			③展示場の展示替えを行ない、第2回目となる企画展示「ましこの手仕事展vo12を開催した。（会期9/5～11/8） ③企画展示	
	10月			③展示場の展示替えを行ない、第1回目となる企画展示「ましこの手仕事展vo12を開催した。（会期9/5～11/8）	
	11月	③実施者が、今期二回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、三回目となる企画展示事業の準備に着手する。 ③実施者が、今期三回目となる企画展示事業を実施する。		③展示場の展示替えを行ない、第1回目となる企画展示「ましこの手仕事展vo12を開催した。（会期9/5～11/8）	
	12月			③企画展示「「風景と道の駅」を継続して展示した。（会期12/25～1/11）	
	1月			③登り窯と蹴りロクロ～師匠の言葉①～を展示（会期 1/26～2/28）	
	2月	③実施者が、今期三回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、四回目となる企画展示事業の準備に着手する。 ③実施者が、今期四回目となる企画展示事業を実施する。		③登り窯と蹴りロクロ～師匠の言葉①～を展示（会期 1/26～2/28）	
	3月			③登り窯と蹴りロクロ～師匠の言葉②～を展示（会期 3/13～4/25）	

	<p>③担当課の点検・検証                  ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)                  以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施しているが、企画展示事業の主旨に沿った企画・展示内容が求められる。</p>	<p>③町が求める企画展示事業の主旨や効果について、適切な指導を行なうなどし意思共有を図っていく。</p>
<p>第2 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施しているが、企画展示事業の主旨に沿った企画・展示内容が求められる。</p>	<p>③町が求める企画展示事業の主旨や効果について、適切な指導を行なうなどし意思共有を図っていく。</p>
<p>第3 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施しているが、企画展示事業の主旨に沿った企画・展示内容が求められる。</p>	<p>③町が求める企画展示事業の主旨や効果について、適切な指導を行なうなどし意思共有を図っていく。</p>
<p>第4 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施しているが、企画展示事業の主旨に沿った企画・展示内容が求められる。</p>	

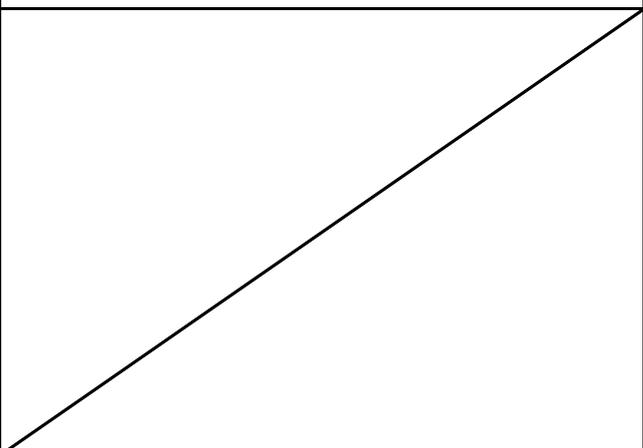
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし  ②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	内部検証および外部検証結果を踏まえ、取組を継続していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・0委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・4委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員  ②意見・提言 ・平成8年を境に、原料をはじめすべての益子焼産業の低迷がみられる。業界全体で苦慮しているがなかなか回復がみられない。今後も益子焼産業のため努力をしなければならない。  ・そもそも道の駅への企画展示でKPIの達成につながらないのではないか。目標を達成するための手段を、リアルに（どこに、どのように売るのか、出口を）考えるべき。今までの実施内容は、主にプロモーションと商品開発のみなので、今後は出口と流通を考えるべき。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	世界一が集う焼きものの町づくり	進捗状況	100%		
KPI	益子焼総販売額	本年度目標値	38億円(R1)	現状値	23.0億円(R1)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①-1デザイナーフカサワナオト氏より、新たな益子焼新商品開発の提案を受け、事業推進を図る ②インスタグラム掲載 ④招聘作家ゾリアン・スミア氏（5/9～7/3）の滞在延期とした。	
	5月	①益子焼新商品開発の推進 ②益子焼使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼き物を学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行われている益子焼授業への協力		②インスタグラム掲載 ④リーチ工房研修プログラム2020（5/15～8/10）の実施延期とした。	
	6月			①-2日本遺産認定活性化協議会において益子焼等の新商品開発を推進する ②インスタグラム掲載更新1回 ③道の駅でのフォトコンテスト開催に向けて検討 ④交流事業2019年成果展（3/28～6/14）まで開催	
	7月				
	8月	①益子焼新商品開発の推進 ②益子焼使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼き物を学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行われている益子焼授業への協力			
	9月			②道の駅でのフォトコンテスト開催に向けて検討 ④アーティスト・イン・レジデンスin益子「5年間」展に向けての準備	
	10月	①益子焼新商品開発の推進 ②益子焼使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼き物を学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行われている益子焼授業への協力		④アーティスト・イン・レジデンスin益子「5年間」展開催 10/20～12/19	
	11月			④アーティスト・イン・レジデンスin益子「5年間」展開催 10/20～12/19 ④益子在住の陶芸界調査を実施した（令和3年3月まで予定）	
	12月			②フォトコンテスト開催に向けての準備 ④アーティスト・イン・レジデンスin益子「5年間」展開催 10/20～12/19 ④益子在住の陶芸界調査を実施した（令和3年3月まで予定）	
	1月	①益子焼新商品開発の推進 ②益子焼使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼き物を学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行われている益子焼授業への協力		②フォトコンテストのPR活動（チラシポスター配布） ④益子在住の陶芸界調査を実施した（令和3年3月まで予定）	
	2月			②フォトコンテストの応募期間2/1～2/28まで開催。 ④益子在住の陶芸界調査を実施した（令和3年3月まで予定）	
	3月			②フォトコンテストの応募投稿数18件。審査会を実施。 ④益子在住の陶芸界調査を実施した（アンケート又は聴き取り 計60件）	

	<p>③担当課の点検・検証                      ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①-1コロナ禍によりフカサワナオトによる新商品開発企画は当面見送りとなる                      ①-2日本遺産に関する商品化のためのセミナー・ワークショップの実施を推進する                      ②インスタグラム更新、フォトコンテストの事前準備ができた                      ④コロナ禍により、招聘作家ジュリアン・スティア氏)の滞在、リー工房研修プログラム2020は次年度に延期となったため、招聘作家、派遣者との調整をしている。</p>	<p>①-2関係団体、民間と連携し推進する                      ②継続的にインスタグラムを掲載できるように努める。また、フォトコンテストのための実施遂行を図る。                      ④作家滞りが延期となる中で事業の実施内容、方法について検討し事業の遂行を図る。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①-2日本遺産に関する商品化のためのセミナー・ワークショップの実施を推進する                      ②継続的にインスタグラム更新できるよう実施推進する。                      ④コロナ禍により滞在作家を呼べない中の実施方法として、成果展とおした事業のアピールを推進する。</p>	<p>①-2関係団体、民間と連携し推進する                      ②フォトコンテスト開催実施に向けて、スケジュール調整を行い遂行を図る。                      ④作家の滞り以外で、地元陶芸家に向けた勉強会並びに益子在住の陶芸家調査を行っていく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>②インスタグラムの更新、推進をする。                      ④アーティスト・イン・レジデンスin益子「5年間」展来場者271名。成果展とおして事業成果の周知ができた。</p>	<p>②フォトコンテスト開催にむけて、スケジュール調整やPRに努め事業遂行を図る。                      ④益子在住の陶芸家調査とおして、事業への要望や実施方法の改善につなげていく。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>②フォトコンテストを無事に終了することができた。                      ④益子在住の陶芸家調査を実施することができた。</p>	

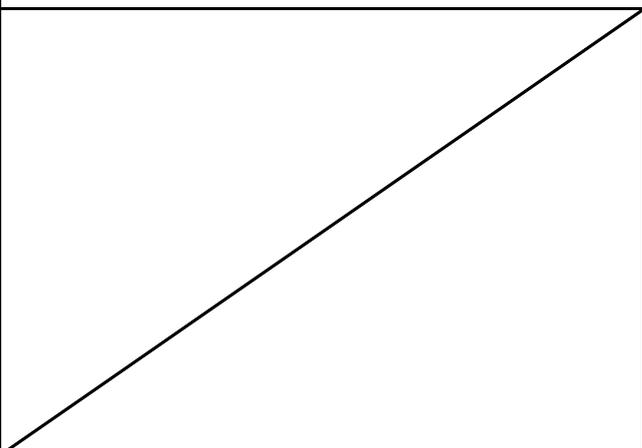
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	第2四半期の方針・改善点を踏まえて実施する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・0委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・4委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員 ②意見・提言 ・平成8年を境に、原料をはじめすべての益子焼産業の低迷がみられる。業界全体で苦慮しているがなかなか回復がみられない。今後も益子焼産業のため努力をしなければならない。 ・目標を達成するための手段を、リアルに（どこに、どのように売なのか、出口を）考えるべき。今までの実施内容は、主にプロモーションと商品開発のみなので、今後は出口と流通を考えるべき。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	環境課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	就労支援と雇用創出	進捗状況	100%		
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	1.0	現状値	0.60 (1~12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			④林道生田目線現地調査	
	5月	④林道生田目線において、道路沿いの除草作業や側溝清掃の現地確認等		④林道生田目線作業に向けたシルバー人材センターとの連絡調整	
	6月			④林道生田目線除草作業実施	
	7月			④林道生田目線現地確認	
	8月	④林道生田目線において、道路沿いの除草作業の実施		④林道生田目線作業に向けたシルバー人材センターとの連絡調整	
	9月			④林道生田目線除草作業実施	
	10月			④林道生田目線現地確認	
	11月			④林道生田目線現地確認	
	12月			④林道生田目線現地確認	
	1月	④林道生田目線において、側溝清掃作業の実施		④林道生田目線状況確認	
	2月			④林道生田目線状況確認	
	3月			④林道生田目線状況確認	

	<p>③担当課の点検・検証 〔 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。 〕</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>④シルバー人材センターへ効率的な業務委託ができるよう努めていく必要がある。</p>	<p>④今年度中に除草作業と側溝清掃の業務委託を行うため、早期に作業の打ち合わせを行う。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>④シルバー人材センターとの連絡調整がスムーズにいき、作業を実施することが出来た。</p>	<p>④作業を適切な時期に実施するために、シルバー人材センターとの連絡を密にしていく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>④林道生田目線の側溝清掃については、早い時期に実施することができるよう調整を行う。</p>	<p>④林道の除草作業については、他の林道は年2回実施しているところであり、生田目線においてもランドスケープ計画に基づく前沢町有林の整備を踏まえると年2回実施するように検討する必要性が生まれてきている。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>④林道生田目線の作業は、シルバー人材センターに依頼するため早い時期に相談する必要がある。</p>	

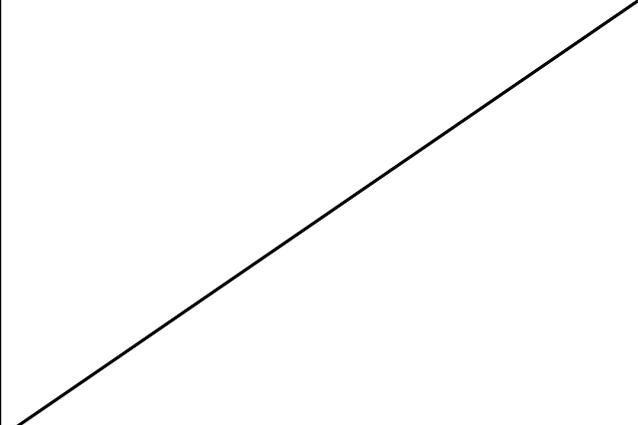
		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし  ②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	内部検証および外部検証結果を踏まえ、取組を継続していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・2委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・1委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員  ②意見・提言 ・コロナの影響があるため。 ・コロナの回復を待つべき。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	高齢者支援課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	就労支援と雇用創出	進捗状況	100%		
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	1.0	現状値	0.60 (1~12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。	
	5月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		④シルバー人材センター書面理事会(5/8)、シルバー人材センター書面定時総会(5/26)	
	6月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センター理事会(6/3)	
	7月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。	
	8月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④新規事業に関する打ち合わせ(8/20)、シルバー人材センター理事会(8/28)	
	9月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。	
	10月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー理事会(10/23)、ウッドチップパー貸出し(10/30)	
	11月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④新規事業に関する打ち合わせ(11/25)、ウッドチップパー貸出し(11/1、4、16、17、18)	
	12月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー理事会(12/15)、ウッドチップパー貸出し(12/7、8、9)	
	1月			④シルバー人材センター日常生活支援総合事業の実施方法等の検討 ウッドチップパー貸出し(1/12、13、14、15)	
	2月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センター日常生活支援総合事業の実施方法等の検討	
	3月			④シルバー人材センター日常生活支援総合事業課内打合せ(3/2)、シルバー人材センター理事会(3/26)	

	<p>③担当課の点検・検証                  ( ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。 )</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移に注視し、施設整備に関する検討を重ねる。                  ④シルバー人材センターの収益の拡大が難しいため、新規事業の検討を行う。</p>	<p>①引き続き、近隣市町の施設整備状況等の情報収集に努める。                  ④シルバー人材センターの新規事業の検討を継続して行っていく。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移に注視し、施設整備に関する検討を重ねる。                  ④シルバー人材センターの収益の拡大が難しいため、社協・シルバー・町の3者で新規事業の内容の検討を行った。</p>	<p>①引き続き、近隣市町の施設整備状況等の情報収集に努める。                  ④シルバー人材センターの新規事業の内容検討を継続して行っていく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移に注視し、施設整備に関する検討を重ねる。                  ④シルバー人材センターの収益の確保の新たな取り組みとして、日常生活支援総合事業についての検討を行った。</p>	<p>①引き続き、近隣市町の施設整備状況等の情報収集に努める。                  ④シルバー人材センターの新規事業(日常生活支援総合事業)の取組について引き続き検討する。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移に注視し、施設整備に関する検討を重ねる。                  ④シルバー人材センターの収益の確保の新たな取り組みとして、日常生活支援総合事業についての検討を行った。</p>	

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	①施設入所を希望する入所待機者数等の把握に努めるとともに、近隣市町における施設整備の進捗状況等について、引き続き情報収集に努め、本町の施設整備方針を再考する。 ④今後も引き続き、シルバー人材センターの新規事業の検討を継続して行っていく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・2委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・1委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員 ②意見・提言 ・コロナの影響があるため。 ・コロナの回復を待つべき。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	就労支援と雇用創出	進捗状況	100%		
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	1.00	現状値	0.60 (1~12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			②求職者を対象としたセミナーの日程調整	
	5月	①町HPにおいて起業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー、合同就職面接会の開催 ③雇用支援奨励金制度のPR		②求職者を対象としたセミナーのチラシ作成及び配布作業	
	6月			②求職者を対象としたセミナーのチラシ作成及び配布作業。合同就職面接会を4町でR3.2月(案)に調整	
	7月			②求職者セミナーの実施 7/17(4人)、7/21(1人)	
	8月	①町HPにおいて起業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー、合同就職面接会の開催 ③雇用支援奨励金制度のPR		②求職者セミナーの実施 8/18(16人)、8/19(15人)、8/27(16人)、8/28(17人) ②4町合同就職面接会打合せ会議(8/26)	
	9月			②求職者セミナーの実施 9/25(6人)、9/30(10人)	
	10月			②求職者セミナーの実施 10/15(6人)、10/22(7人)、10/30(7人)	
	11月	①町HPにおいて起業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー、合同就職面接会の開催 ③雇用支援奨励金制度のPR		②求職者セミナーの実施 11/12(3人)、11/26(8人) ②合同就職面接会打合せ 11/19	
	12月			②求職者セミナーの実施 12/10(8人)、12/16(11人)、12/17(11人)、12/23(7人)	
	1月			②合同就職面接会案内チラシを新聞折込で周知。 ②求職者セミナーがコロナ緊急事態宣言により中止。	
	2月	①町HPにおいて起業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー、合同就職面接会の開催 ③雇用支援奨励金制度のPR		②合同就職面接会2/3予定がコロナ緊急事態宣言により中止。	
	3月			②合同就職面接会のR3年度に向けての3町(市貝、茂木、益子)によるWeb会議を開催。	

	<p>③担当課の点検・検証                  ( ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。 )</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>②コロナ禍の影響によりセミナーの日程を7月からに調整し、準備を進めることができた。</p>	<p>②セミナーのチラシを早めに準備し、HP町内施設等への配布設置を継続しPRに努める。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>②求職者セミナーを予定どおり開催することができた。                  ②4町合同就職面接会の役割分担、タイムスケジュールを決定することができた。</p>	<p>②町内施設等へのチラシ配布・設置を継続し、ホームページの掲載も含めPRに努める。                  ②コロナ禍の影響により、4町でなく3町での面接会実施となるため、連携を密に取りながら準備を進める。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>②求職者セミナーを予定どおり開催することができた。                  ②合同就職面接会への参加企業を決定し、HPやポスター、チラシ等でPRを実施した。</p>	<p>②合同就職面接会に向けて引き続きPRを実施するとともに、関係機関と連携協力し開催準備に努める。                  求職者セミナー参加者及び合同就職面接会参加者の就職先等状況追跡アンケートや状況追跡調査を行う。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>②1月に予定していたセミナーは、緊急事態宣言により安全面を考慮し中止。また、3町合同就職面接会も中止とした。</p>	

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	第2四半期の方針・改善点を踏まえて実施する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A：目標を達成・・・0委員 B：目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・2委員 C：成果が見えず取組を継続すべき・・・1委員 D：成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員 ②意見・提言 ・コロナの影響があるため。 ・コロナの回復を待つべき。	
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化		
施策	観光客誘客の拡大	進捗状況	100%		
KPI	観光客入込数	本年度目標値	295万人	現状値	178.9万人
KPI	観光客宿泊者数	本年度目標値	50,000人	現状値	25,305人
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）	②実施内容・実績・成果		
主な 取組 内容	4月	①観光戦略会議において観光客の戦略的誘客について検討。DMO等設立を見据えた組織づくりの推進。 ②テニグパケーションの企画検討・情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④「ましこ悠和館」御座所・ギャラリーの運営。 ⑤観光情報の一元化。 ⑥-1土祭2021に向けた組織体制の形成。 ⑦-2観光イベントの支援。 ⑧益子大使による観光PR活動への支援。	①観光戦略web会議（内部会議）山田桂一郎氏×町長×事務局 4/9 ②コロナ禍によりラーニングパッケージ事業は当面実施を見送る ③コロナ禍によりましこ悠和館（宿泊・ギャラリー・御座所）を4/16から休業 ましこ悠和館 4/1～15宿泊者数19名 ④観光情報の一元化については観光戦略ブランディング部会にて検討する。 推進シート「地域資産」町のブランドイメージの確立 ⑤-1土祭2018アート委員との打合せ 4/17 ⑥益子大使、宣伝部長への広報紙送付 4/30		
	5月		⑥-2益子宿泊&体験クーポン実行委員会「事業内容検討」 5/26 ⑦益子大使、宣伝部長への広報紙送付 5/29		
	6月		②テニグ「小麦物語」参加者募集はせず実施。開場準備作業 6/14 ③日本遺産関連事業によるサイクルツーリズム調査研究を計画する ④ましこ悠和館（宿泊のみ）再開6/1 宿泊者数25名 ⑤-1土祭2018 3地区委員との打合せ 6/16 ⑥-2益子宿泊&体験クーポン実行委員会「事業内容検討」 6/2.9.12.19 ⑦益子大使、宣伝部長への広報紙送付 6/30		
	7月		③日本遺産関連事業によるサイクルツーリズム調査研究を計画する ⑥-1土祭2021関係打合せ 7/8.15.29 ⑥-2益子宿泊&体験クーポン7/1-11/30実施 クーポン利用メニュー40種 販売551/810セット ⑦益子大使、宣伝部長への広報紙送付 7/31		
	8月	①観光戦略会議において観光客の戦略的誘客について検討。DMO等設立を見据えた組織づくりの推進。 ②テニグパケーションの企画検討・情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④「ましこ悠和館」御座所・ギャラリーの運営。 ⑤観光情報の一元化。 ⑥-1土祭2021に向けた組織体制の形成。 ⑦-2観光イベントの支援。 ⑧益子大使による観光PR活動への支援。	①観光戦略会議開催「DMO構想（案）事業（案）」出席7/8名 8/24 ②テニグ「小麦物語」8/2 参加者12名 ③日本遺産関連事業によるサイクルツーリズム調査研究を計画する ④ましこ悠和館ギャラリー再開8/1 8月来場者45名 ⑤-1土祭2021関係打合せ 8/4.7.31 ⑥-2益子宿泊&体験クーポン7/1-11/30実施 クーポン利用メニュー40種 販売累計743/810セット（8月販売192セット） ⑦益子大使、宣伝部長への広報紙送付 8/31		
	9月		①第1回土祭実行委員会「開催概要について」出席9名 9/4 ③日本遺産関連事業によるサイクルツーリズム調査研究を計画する ④ましこ悠和館ギャラリー 9月来場者29名 ⑤-1土祭2021実行委員会「開催概要について」出席6名 8/4 ⑥-2益子宿泊&体験クーポン7/1-11/30実施 販売累計810/810セット（9月販売67セット） ⑦益子大使、宣伝部長への広報紙送付 9/30		
	10月		①DMO担当地域おこし協力隊1名着任（奥村）10/1 ①DMO最高執行責任者（特定任期付き職員）書類選考 14名 ④ましこ悠和館ギャラリー 10月来場者20名 ⑥第2回土祭実行委員会「会期及び開催スケジュールについて他」出席9名 10/1 ⑥土祭担当地域おこし協力隊1名着任（勇）10/1 ⑥出前講座「観光について」土祭説明 七井小学校6年生 10/27 ⑦益子大使への広報紙送付 10/30		
	11月	①観光戦略会議において観光客の戦略的誘客について検討。DMO候補法人登録。組織づくりの推進。 ②テニグパケーションの企画検討・情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④「ましこ悠和館」御座所・ギャラリーの運営。 ⑤観光情報の一元化。 ⑥-1土祭2021プロモーションの実施・土祭プロジェクト企画検討。 ⑦-2観光イベントの支援。 ⑧益子大使による観光PR活動への支援。	①DMO最高執行責任者（特定任期付き職員）採用面接 5名→1名採用 1/1着任予定 ②テニグパケーション「小麦物語」11/23 参加者14名 ③レンタサイクル拠点施設基本構想デザイン選定プロポーザル 1次選考（書類）参加3社 11/6 2次選考（プレゼン）参加2社 11/9 ④ましこ悠和館ギャラリー 11月来場者39名 ④ましこ悠和館 例月検査現地調査 11/20 ⑥第3回土祭実行委員会「企画検討」出席9名 ⑥第4回土祭実行委員会「企画検討」出席9名 ⑥-2益子宿泊&体験クーポン事業実施期間完了 7/1-11/30 ⑦益子大使へ広報紙送付 11/30		
	12月		③レンタサイクル拠点施設整備事業コロナ禍により一時凍結 12/3 ④ましこ悠和館ギャラリー 12月来場者19名 ④ましこ悠和館視察 益子西小学校6年生48名 12/15 ⑥陶器市運営委員会「春の陶器市開催について」 12/16 ⑥第5回土祭実行委員会「企画検討」出席9名 12/22 ⑦益子大使7名・益子宣伝部長3名にPRのための特産品（苺）を送付 12/10 ⑦益子大使へ広報紙送付 12/25		
	1月	①観光戦略会議において観光客の戦略的誘客について検討。DMO組織づくり・事業計画の推進。 ②テニグパケーションの企画検討・情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④「ましこ悠和館」御座所・ギャラリーの運営。 ⑤観光情報の一元化。 ⑥-1土祭2021プロモーションの実施・土祭プロジェクト企画検討。 ⑦-2観光イベントの支援。 ⑧益子大使による観光PR活動への支援。	①DMO最高執行責任者（特定任期付き職員）1名着任 1/1 ①観光戦略会議「DMO設立について」1/13 7/9名出席 ①観光戦略ワーキング山田桂一郎 WEB会議 1/26 ④ましこ悠和館ギャラリー 1月来場者2名 ④ましこ悠和館 益子小授業用動画撮影 1/23 ⑥陶器市運営委員会「春の陶器市開催について」 1/20 ⑥-1土祭益子地区会「地域づくり事業について」1/28		
	2月		①DMO法人発起人会「定款・事業計画・創立総会について」2/8 ①住民説明会開催「新たな観光事業について」町民ホール 参加者120名 ④ましこ悠和館ギャラリー 2月来場者2名 ⑥陶器市実行委員会「春の陶器市開催について」2/22 ※陶器市中止について ⑥-1土祭実行委員会「事業計画について」9名 ⑥-1土祭益子地区会 2/18 ⑥-1土祭七井地区会 2/18		
	3月		①DMO法人「ましこラボ」創立総会/観光戦略ワーキング山田桂一郎講演会83名 3/1 ③レンタサイクル事業 自転車購入28台 3/14 ③レンタサイクル事業者打合せ「町内シェアサイクルの運用について」道の駅・DMO・町 3/18 ④ましこ悠和館ギャラリー 3月来場者30名 ⑥陶器市運営委員会「益子モノ市開催について」3/3 3/24 ⑥-1土祭関連企画「本通り商店街形成デザイン事業」宇大遠藤先生現地視察3/3 ⑥-1土祭実行委員会3/9 土祭益子地区会3/4 3/18 七井地区会3/22 田野地区3/26		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
	<p>①DMO登録要件のガイドライン変更による確認事項の共有ができた</p> <p>②ラーニングパッケージ1事業について始動。次回以降、状況をみながら一般参加者を募り実施予定</p> <p>③シェアサイクリング事業については利用者動向調査を実施し、拠点整備・サイクリングルート等の検証を行う</p> <p>④ましこ悠和館ギャラリーの再開を8/1に予定。再開に向け、ギャラリー企画展等の準備を進める</p> <p>⑥-1土祭旧執行部から意見を伺い、次期開催にむけた実施体制の検討がなされた</p>	<p>①DMO候補法人登録に向け、主体となる適任者を検討する</p> <p>②ラーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める</p> <p>③調査検証のもと、観光周遊するにあたり効果的で利便性のあるシェアサイクリング整備を推進する</p> <p>④ギャラリー再開に向け、宿泊事業と連携し情報発信等PRを推進し誘客に繋げる</p> <p>⑥-土祭関係者と協力し、事業実施に向け組織体制・構成員を決定する</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①DMO構想・事業計画について観光戦略会議での承認を受け、候補法人登録に向けて準備を進めていく</p> <p>②ラーニングパッケージ1事業について実施。コロナ感染予防対策の上実施することが出来た</p> <p>③サイクルツーリズム調査（ニーズ調査・動向調査等）概要について協議が進んだ</p> <p>④ましこ悠和館ギャラリーを再開。コロナ感染予防対策の上安全に運営できている。</p> <p>⑥-1第1回土祭実行委員会にて、2021年に向け（コロナ禍の中での）新たな土祭の開催形式について協議することが出来た。</p> <p>⑥-2益子宿泊&amp;体験クーポンの販売予定数810セット完売。最終の販売実績数は実施期間完了後に確定する。</p>	<p>①DMO候補法人登録に向け、事業計画・収支計画の詳細設計を進める。</p> <p>②ラーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める</p> <p>③調査検証のもと、観光周遊するにあたり効果的で利便性のあるサイクリング事業の推進を検討する</p> <p>④ギャラリー運営において、宿泊事業と連携し情報発信等PRを推進し誘客に繋げる</p> <p>⑥-1土祭実行委員会を中心とした組織体制で、企画立案・収支予算積算を進める。</p> <p>⑥-2益子宿泊&amp;体験クーポン実行委員会と協力し、健全な事業運用に努める。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①DMO構想・事業計画について観光戦略会議での承認を受け、候補法人登録に向けて準備を進めていく</p> <p>②ラーニングパッケージ1事業について実施。コロナ感染予防対策の上実施することが出来た</p> <p>③サイクリング拠点施設整備については、コロナ禍の影響により経済支援を優先的に行うことを理由に一時凍結となった</p> <p>④ましこ悠和館ギャラリーを再開。コロナ感染予防対策の上安全に運営できている</p> <p>⑥土祭実行委員会にて、2021年に向け（コロナ禍の中での）新たな土祭の開催形式について企画を検討していく</p> <p>⑥益子宿泊&amp;体験クーポン7/1-11/30実績 参加店舗数45店舗 クーポン発行809冊（1冊5,000円）8,090,000円 換金率98%</p>	<p>①DMO候補法人登録に向け、事業計画・収支計画の詳細設計を進める。</p> <p>②ラーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める</p> <p>③サイクリング事業として、アシスト自転車の購入を進める。（レンタサイクル事業・サイクリングツアー事業に活用）</p> <p>④ギャラリー運営において、宿泊事業と連携し情報発信等PRを推進し誘客に繋げる</p> <p>⑥土祭実行委員会を中心とした組織体制で、企画立案・収支予算積算を進める。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①DMO法人「ましこラボ」が創立され、益子町観光戦略に基づく戦術を推進する実行組織として稼働。</p> <p>②ラーニングパッケージ1事業について実施。コロナ感染予防対策の上実施することが出来た。</p> <p>③コロナ禍に対応する新しい観光スタイルの二次交通整備として自転車28台を購入し、サイクリングツーリズム事業の充実を図っていく。</p> <p>④ましこ悠和館ギャラリーは、コロナ感染予防対策の上安全に運営できているが、入場者数は大幅な減少となった。</p> <p>⑥土祭実行委員会・地区委員会等を開催し、次年度開催に向けての土祭企画について検討が進んだ。</p> <p>⑥益子秋の陶器市の中止を決定した。開催規模を縮小し「益子モノ市」としてテント村開催を進める。</p>	<p style="text-align: center;">/</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	第2四半期の方針・改善点を踏まえて実施する。 コロナ禍でのDMO事業や土祭、ツーリズム事業等の観光振興を推進するにあたり、関係団体や町民に理解をいただきながら、感染予防対策ガイドラインを遵守し、実施してまいりたい
	第2四半期	②意見・提言 ・年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A:目標を達成・・・0委員 B:目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・2委員 C:成果が見えず取組を継続すべき・・・2委員 D:成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員	
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 ・新型コロナウイルスは今後なくなると考える。ウィズコロナ時代を前提に、今後、人々のコロナウイルスに対する脅威への意識や行動の変化を想定したうえでの取組に変えていくべき。 ・コロナ禍のため、回復を待つべき。	

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化		
施策	外国人観光客（インバウンド）の誘客	進捗状況	100%		
KPI	外国人観光客宿泊者数	本年度目標値	1,250人	現状値	147人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			②H27栃木県事業で整備済。	
	5月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の整備 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④広域観光ルートの検討 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進		①国際観光推進協議会総会（書面決議）5/27	
	6月			③日本遺産関連により多言語案内板等の整備推進を図る ④日本遺産関連により笠間市との広域観光ルートを検討する ④観光プロモーション協議会県東分科会 6/22	
	7月				
	8月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の整備 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④広域観光ルートの検討 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進		④観光プロモーション協議会県東分科会 8/20	
	9月				
	10月			①栃木県国際観光推進協議会（書面報告）「事業計画について」 10/23 ④観光プロモーション協議会県東分科会 10/6	
	11月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の整備 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④広域観光ルートの検討 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進			
	12月			④真岡線SL運行協議会「真岡線全線開通100周年記念」記念式典 12/10 記念駅弁を制作し、1/9からのSL列車車内で販売予定	
	1月			④観光プロモーション協議会県東分科会「事業計画について」 1/12 ④芳賀地区観光推進協議会「R1事業報告・R2計画について」 1/12 ④FIT構想推進協議会「オンラインツアー」にて情報発信 1/16	
	2月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の整備 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④広域観光ルートの検討 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進			
	3月			④観光プロモーション協議会県東分科会「事業計画について」 3/18	

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る</p> <p>③日本遺産活性化協議会において多言語表記看板の適正箇所への設置のため、モニター等の調査研修を検討する</p> <p>④日本遺産活性化協議会において笠間市との日本遺産ツアーの検討を進め、R3の旅行商品化を目指す</p> <p>④県東分科会においては芳賀地区観光推進のため、広域旅行商品のプロモーションを推進する</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。</p> <p>③モニターの実施結果を参考にし、外国人観光客が快適に周遊するための案内板等の設置を行う。</p> <p>④笠間市と連携し、観光拠点・文化施設の環境整備・人材育成を推進し、魅力的な旅行商品化を推進する</p> <p>④芳賀地区内の観光コンテンツを共有し、双方自治体の連協・協力を努める</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る</p> <p>③日本遺産活性化協議会において多言語表記看板の適正箇所への設置のため、モニター等の調査研修を検討する</p> <p>④日本遺産活性化協議会において笠間市との日本遺産ツアーの検討を進め、R3の旅行商品化を目指す</p> <p>④県東分科会においては芳賀地区観光推進のため、広域旅行商品の造成・PRプロモーションを推進する</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。</p> <p>③モニターの実施結果を参考にし、外国人観光客が快適に周遊するための案内板等の設置を行う。</p> <p>④笠間市と連携し、観光拠点・文化施設の環境整備・人材育成を推進し、魅力的な旅行商品化を推進する</p> <p>④芳賀地区内の観光コンテンツを共有し、双方自治体の連協・協力を努める</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る</p> <p>③日本遺産活性化協議会において多言語表記看板の適正箇所への設置のため、モニター等の調査研修を検討する</p> <p>④日本遺産活性化協議会において笠間市との日本遺産ツアーの検討を進め、R3の旅行商品化を目指す</p> <p>④県東分科会においては芳賀地区観光推進のため、広域旅行商品の造成・PRプロモーションを推進する</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。</p> <p>③モニターの実施結果を参考にし、外国人観光客が快適に周遊するための案内板等の設置を行う。</p> <p>④笠間市と連携し、観光拠点・文化施設の環境整備・人材育成を推進し、魅力的な旅行商品化を推進する</p> <p>④芳賀地区内の観光コンテンツを共有し、双方自治体の連協・協力を努める</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る</p> <p>③日本遺産活性化協議会において多言語表記看板の適正箇所への設置のため、モニター等の調査研修を検討する</p> <p>④日本遺産活性化協議会において笠間市との日本遺産ツアーの検討を進め、R3の旅行商品化を目指す</p> <p>④県東分科会においては芳賀地区観光推進のため、広域旅行商品の造成・PRプロモーションを推進する</p>	

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言  ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし  ②意見・提言 ・長期的視点により、継続されたい。	第2四半期の方針・改善点を踏まえて実施する。 WEBやSNSを活用した情報発信やプロモーションを行い、アフターコロナを見据えたインバウンド誘客事業を実施していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	①評価 A:目標を達成・・・0委員 B:目標は未達成だが、相当程度の成果有・・・1委員 C:成果が見えず取組を継続すべき・・・3委員 D:成果が見えず取組を終了すべき・・・0委員  ②意見・提言 ・新型コロナウイルスは今後なくなると考える。ウィズコロナ時代を前提に、今後、人々のコロナウイルスに対する脅威への意識や行動の変化を想定したうえでの取組に変えていくべき。  ・インバウンドの渡航が制限されている中、成果が見えないのは仕方ないが、今後重要なことなので強く進めていただきたい。	
	総括（第4四半期も含む）		